



技術史教育

第89号

2012.1.31

Education for History of Technology

第89号 目次

日本技術史教育学会2011年度全国大会(徳島)開催報告……………英 崇夫(1)
全国大会(徳島)見学会報告……………続木 章三(2)
2011年度日本技術史教育学会関西支部総会・研究発表講演会案内…………緒方 正則(3)
お知らせ・理事会議事録・編集後記……………(4)

【全国大会報告】

日本技術史教育学会

2011年度全国大会(徳島)開催報告

2011年度全国大会実行委員会

実行委員長 英 崇夫 (徳島大学名誉教授)

日本技術史教育学会全国大会(徳島)が2011年11月5日に徳島大学工学部の同窓会館である工業会館で開かれました。今年の新潟で開催の予定であったのが、7月の新潟大水害で開催準備が整わなくなり、急遽徳島で開催をする運びとなったものです。その日は徳島マラソン大会を一日後に控えて明け方の強い雨がまだ残る一日でしたが、白井靖幸会長ほか全国各地から総勢16名のメンバーに集まっていただきました。発表講演件数は10件であり、生体熱科学小史、江戸時代の和算、設計とデザイン、プータンへの技術支援、実業教育制度史、歯車数学、ロボットによる佐渡金山坑道探査、からくり人形、製糸技術の変遷、技術史における技術者研究の内容でした。

この中で、白井一氏による開発途上国での道路整備技術支援についての話は、プータンにおいて10年をかけて建設機械・道路整備機械を導入し、その作業の下にOJTで機械操作の技術移転についての目覚ましい成果の紹介でした。一方で、現場レベルでの技術移転は達成したものの、長期的には人材教育のための基礎を学ぶ教育および研修設備の移転が重要であることが述べられました。日本においても灯台下の人材教育をしっかりとやらなければ、技術確保が難しくなると考えるのは筆者だけでしょうか。

白砂洋志夫氏は製糸技術の歴史を辿り、明治期の館三郎の製糸技術の業績を紹介しました。また、講演と同時に館がヨーロッパの器械を参考に考案した製糸器械の複製を試作して会場に展示し、実演も行ってくれました。図面だけではその詳細が分からないことも、模型を動かすことにより磨擦器(みがきよりき)の仕組みが良く理解できました。学生に機械構造を教える場合に、図面とことばによる説明だけでなく、実物模型を与えることの大切さが実感として分かりま

す。まさに百聞は一見に如かず、実物に勝るものなしの感じでした。

特別講演では、日亜化学工業株式会社取締役の向井孝志氏から「GaN系LEDの歴史」の話がありました。日亜化学工業株式会社はLEDの製作で世界に名を誇る徳島県の代表企業です。青色LEDとその応用製品の開発により、LEDの世界におけるリーディングカンパニーとしてその名を世界に馳せています。

講演では、ローソクなどの炎の発光から始まって発熱による発光、物質の蛍光による光、そしてLEDの光まで、われわれは発光の原理に4世代の発展を辿ってきたことが説明されました。赤および緑のLEDに加えて20世紀末に青色のLEDが発明され、さらに青色LEDと黄色の発光体粉末を組み合わせた白色LEDの開発も伴って、LEDは照明の世界に革命的な発展を遂げています。発光効率についても、LEDは以来10数年間でこれまでのいかなる発光体よりも急速な進展を見せていることに、LEDの将来がどのようになるのか大きな期待が寄せられました。

また、この特別講演会は徳島大学工学部生および大学院生に対する特別講演としても同時開講され、会場は100人以上の聴衆にあふれて学生たちにも大きな印象を与えました。日本技術史教育学会の全国大会としてこのような役割ができることも新しい方法として記憶に留めることができるでしょう。

総会のあくる日は徳島の伝統的な芸術、技術の鑑賞および体験を基本とする交流会を行いました。一つは阿波十郎兵衛屋敷で演じられる阿波人形浄瑠璃の鑑賞と木偶(でこ)頭作製の見学、もう一つは藍住町「藍の館」での藍染め体験です。阿波徳島で連綿と受け継がれている技術に十分感動していただけたことを、主催者側としてたいへん嬉しく思います。

日本技術史教育学会2011年度 全国大会(徳島)見学会報告

2011年度全国大会実行委員会実行委員
続木 章三(徳島大学)

研究発表当日は朝から風雨激しく、交流会後の「阿波踊り見学」が危ぶまれていたが、幸い、夕方には雨もあがり、JR徳島駅前の「昴宿よしの」での交流会には17名の参加者があり、特別講演で講師を務めていただいた(株)日亜化学工業取締役の向井氏を交えた歓談と阿波の郷土料理に舌鼓を打つことができた。交流会を終える頃には雨もすっかり止み、ほろ酔い気分そこそこに送迎バスで眉山の麓にある「阿波おどり会館」に向かった。その日(夜の部)の出演は有名連『阿波扇』連で、「阿波踊り」特有の笛、鉦、太鼓が醸し出すリズムとメロディー(よしこの)や、躍動感あふれる男踊り、ほのかな色気を漂わせる女踊りを間近で観覧でき、徳島の魅力をあらためて堪能されたのではないのでしょうか。最後のステージでは有名連と一緒に見学者も踊りの輪に加わり、「阿波踊り」のリズムに酔いしれた。ついであるが本学会会員である緒方先生が「にわか連」(見学者などの飛び入り参加のおどり連)で踊りの優秀さを認められ、賞を受けられた。

大会2日目の見学会は阿波の文化や芸能に触れていただくための企画内容とした。見学会の参加者13名は8:30にJR徳島駅前に集合し、ジャンボタクシー2台を連ね、一路、板野郡藍住町の「藍の館」に向かった。

当日はちょうど「とくしまマラソン2011」と重なり、吉野川沿いの幹線道路は交通規制が行なわれ、道路を迂回しながら目的地に向かった。最初の見学地の「藍の館」では参加者全員が天然藍によるハンカチの藍染を体験した。染め上がったハンカチは、色合いや染め模様



「藍染め」の体験をする参加者たち

にどれ1つとして同じものがなく、世界で1つしかない藍染のハンカチにご満悦の表情であった。ちょうどその日、筑前琵琶の演奏会が敷地内の「西の座敷」であり、参加者は哀調を秘めた琵琶の音色と語りに、しばし平家物語と幽玄の世界に浸った。手打ちそばの店「直心庵」で昼食を終え、次の見学地まで多少の時間の余裕があったので、四国八十八ヶ所霊場1番札所「霊山寺」に参詣し、続いて「大谷焼」窯元の巨大な登り窯を見学した。当初の計画であった2つ目の見学地「阿波十郎兵衛屋敷」へは午後2

時頃に到着できた。ここでは連日、阿波人形浄瑠璃が上演されており、当日は「傾城阿波の鳴門・順礼歌の段」が太夫の語りと三味線で演じられた。おなじみの演目であったが、黒子の操る人形の動きは生身の人間以上のリアルさがあり、ストーリーもさることながら人形の動きや表情に感動を覚えられた先生方も多かったのではないのでしょうか。予定ではこの人形浄瑠璃見学で解散することになっていたが、飛行機で帰られる参加者がなかったので、オプションとして近くの「阿波木偶(でこ)人形会館」を見学することにした。ここでは、人形師の人形健こと多田健二氏によるユーモア溢れる木偶人形の作り方や人形頭



巨大な「登り窯」と大物陶器群

のからくり解説など、見学者を飽きさせない話法に引き込まれ、時の過ぎるのを忘れるほどであった。見学終了後、午後5時前にはJR徳島駅まで戻り、そこで解散をした。所用で徳島にもう一泊される先生方もおられたが、それぞれ高速バスや鉄道などで帰途に就かれた。当日、目立ったトラブルや事故もなく無事に見学会を終えられたことは大会実行委員として幸せであった。



人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」の上演

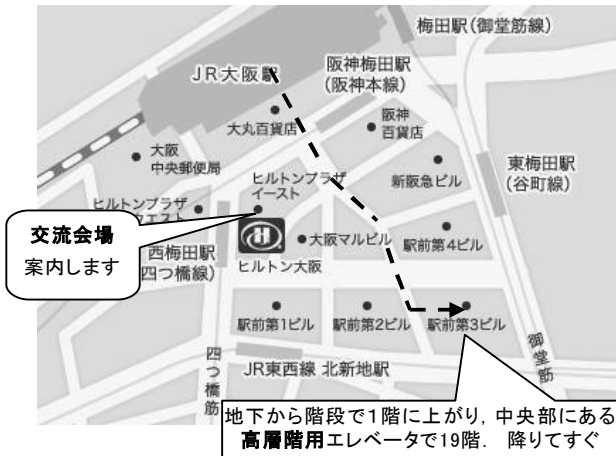
今年度の全国大会が開催予定地の新潟から急遽、徳島での開催に変更され、大会準備期間も短く、周到な計画ができず、参加された方々には多少ご不自由をおかけしましたことをこの紙面にてお詫びいたします。

2011年度総会(通算第9回)・研究発表講演会(通算第5回)開催案内

支部長 林 和宏(大阪産業大学)
幹事 緒方 正則(関西大学)

主催:日本技術史教育学会,同 関西支部
協賛:技術文化史研究会,日本メカニズムアーツ研究会
日時:2012年3月11日(日) 10:05~17:30
場所:大阪産業大学 梅田サテライト キャンパス
〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前
第3ビル19階 (地図参照)
TEL:06-6442-5522, FAX:06-6442-5524
JR「大阪」,「北新地」,大阪市営地下鉄「梅田」,
「東梅田」,「西梅田」,私鉄(阪神,阪急)「梅田」な
ど最寄り駅から徒歩約10分. JR大阪駅中央口か
らは地下街通路(下図の破線)を直進. サテライト キ
ャンパスの詳細は、<http://www.umeda-osu.ne.jp/>

【プログラム】



受付 9:30より
開会挨拶 10:05~10:10
関西支部 支部長 林 和宏(大阪産業大学)
【研究発表講演1】 10:10~12:10(6件)
座長:林 和宏(大阪産業大学)
副座長:堤 一郎(元職業能力開発総合大学校)
【休憩】 12:20~13:30
※昼食を予約された方は33階『河久』へご案内。

【学術講演】 13:40~14:40
司会:下間頼一(元 関西大学)
演題:「第8回技術文化史調査研修旅行
~ヒッタイトの製鉄遺跡とリュキア同盟の遺跡を
巡るトルコの旅~」
講師:渡部紘一(元 松江工業高等専門学校)

【研究発表講演2】 14:50~16:50(6件)
座長:下間頼一(元 関西大学)
副座長:緒方正則(関西大学)
研究発表講演の詳細は、同封の別紙プログラムをご
覧ください。

- (1) 研究発表講演時間は1講演につき発表15分、
討論5分の計20分です。
- (2) パワー・ポイントVer2007まで対応のノートPCを会場
に準備します。発表されるファイルは記録保存のため
コピーさせていただきます。

【支部総会】 17:00~17:20
議長:日本技術史教育学会
会長 白井靖幸(千葉工業大学)
議事:
(1) 2011年度事業報告および2012年度事業計画案
支部長 林 和宏(大阪産業大学)
(2) 2011年度会計報告および2012年度予算案
支部幹事 緒方正則(関西大学)
(3) その他

<<集合写真撮影>> 17:20~17:30

【交流会】 18:00~19:30
会場:『たちばな』へ案内します。
大阪駅前 ヒルトンプラザ' イースト 地下2階。
TEL 06-4796-5770

【参加費】
・参加登録費 2000円(会員・一般聴講者とも。講演論
文集1冊代金を含む)
・昼食代 1575円(要予約)。同ビル地下1階の飲食
店街が利用できますが、混雑が予想されます。別紙の
参加申込書による予約をお勧めします。代金は昼食
会場で各自お支払いください。
・交流会参加費 5000円(90分飲み放題、コース料理)
・見学会(3月10日開催)参加費 1500円(入館料、傷害
保険料、事務手数料を含む)。公共交通機関利用の
ため、当日の交通費は各自の実費負担とします。地
下鉄・私鉄ではJR西日本のICOCA,私鉄系のPiTaPa・
スルッと関西のプリ/ポスト・ペイカードが使えます。SUICA
はJR西日本エリアで使えます。

【見学会】 集合:3月10日(土)13:30、「大阪科学技術
館」入口。大阪市西区鞠(うづぼ)本町1丁目(参加申
込された方には別途お知らせいたします)。昼食は済
ませて御参加ください。浪速っ子も意外と知らない大
阪市西部を地下鉄・JR・徒歩で巡ります。18:00~出発
点に近い場所で交流会(2時間飲み放題、コース料理、
会費4000円程度)。20:30頃、梅田(JR大阪駅)で解散。

【参加申込および締切】
・見学会、研究発表講演会ともに、2月29日(水)到着
日まで受付いたします。参加を希望される方は、同封の
申込用紙に必要事項を記入し、下記申込先宛に郵送
かFAX、あるいは電子メールの本文に必要事項を記述
してお送りください。
・受付後、確認のお知らせを差し上げます。申込書送
付後、連絡が無いときは不着が予想されます。その際
はお問合せください。

【申込先】 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学 システム理工学部 機械工学科 緒方正則
TEL・FAX : 06-6368-0810
E-mail : ogata@kansai-u.ac.jp
学会ウェブサイト <http://homepage3.nifty.com/jsieht/>

【実行委員会】
会長 白井靖幸, 企画担当理事 堤 一郎, 顧問(支部
相談役)下間頼一, 関西支部長 林 和宏, 幹事 緒方
正則, 庶務担当 塩津宣子, 交流会担当 山岡章宏

【2012年度総会・研究発表講演会講演募集】

2012年度総会・研究発表講演会を下記のとおり開催いたします。つきましては研究発表を募集いたしますので、ご希望の方は申込期日までに事務局宛お申込ください。開催期日:2012年6月23日(土), 9:00～開催場所:玉川大学(東京都町田市玉川学園)

研究発表の申込方法

- ①講演者名(登壇者は会員で氏名の前に○印を付ける)及び所属名
- ②主題(タイトル)、副題(サブタイトル):講演題目の変更は不可
- ③講演者連絡先(住所・TEL/FAX・メールアドレス)
- ④講演発表時使用機器(OHP・パワーポイント等)・PC は各自持参

上記の①から④までをA4判用紙に記載し、封書で学会事務局あて郵送してください。受付時の手違いを防ぐため、申込は「郵送のみ」とさせていただきます。なお講演者は2012年度会費を納入済であること、申込受付後の講演題目変更はできないことをご了承ください。

- ◇研究発表講演申込期限:2012年 4月23日(月) 必着
- ◇研究発表講演論文原稿提出期限:2012年5月23日(水)必着

◇研究発表講演申込先:〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-5、小安ビル6F (株)プラス・ワン気付 日本技術史教育学会事務局2012年度総会実行委員会宛
講演希望件数が多い場合は研究発表の時間を1件20分(講演15分、質疑応答5分)とさせていただきますので、予めご了承ください。

【功績賞・業績賞の候補者募集】

日本技術史教育学会規定により、下記の要項により、功績賞・業績賞を募集いたします。表彰内容、表彰者資格、表彰候補者の推薦につきましては表彰規定の通りです。

1.募集要領

- 1)A4判用紙を使用
- 2)表彰の名称(表彰の種類を明記)
- 3)候補者の所属、部署、氏名(自薦は連絡先を追加)
- 4)推薦理由(400字程度)
- 5)推薦者の所属、部署、氏名、連絡先(自薦は不要)
- 6)送付先:学会事務局宛て郵送(「表彰応募」と封筒に朱記)

〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-5 小安ビル6F (株)プラス・ワン気付 日本技術史教育学会事務局

2.募集期限 2012年4月23日(月)厳守(消印有効)

3.問合せ先 学会事務局宛、FAXでお願いします。
FAX:03-3835-2494

4.贈賞、表彰時期 2012年度総会

5.その他 表彰規定については学会誌をご参照ください

い。学会ホームページにも掲載されています。

【書籍紹介】

◇松山晋作,新版今昔メタリカ-金属技術の科学と技術-, オフィス HANS, (2011), ISBN978-4-901794-22-0,2000円
◇三輪修三,工学の歴史-機械工学を中心に,筑摩書房,(2012),ISBN978-4-480-09427-8, 1365円

【理事会議事録】

◆第161回理事会

日時:2011年11月4日(土),15:15～15:45,場所:徳島大学工学部創成学習開発センター,出席者:白井・緒方・堤・佐藤・続木・英(全国大会実行委員長)・白砂(全国大会実行委員),議題 0)第160回議事録案承認,1)全国大会準備内容確認ならびに作業,2)次回理事会:2011年11月26日予定

◆第162回理事会

日時:2011年11月26日(土),15:00～18:00,場所:工学院大学新宿キャンパス,出席者:白井・大河内・緒方・黒田・小林・堤,議題 1)第161回議事録案承認,2)各部門報告<総務(会員動向,会費未納者,HP関連),企画(2012年度総会関連,学会創立15周年記念事業関連),編集(学会誌,ニューズレター編集関連)>,3)2011年度全国大会終了報告,4)第9回日中国際会議開催関連,5)関西支部2011年度総会開催関連,6)学会創立20周年への取組み,7)その他,8)次回理事会:2012年1月21日予定

【訂正】

前号ニューズレター第88号の通しページ番号が間違っており振られておりました。お詫びとともに訂正をお願いいたします。

誤 1(448)～4(451) → 正 1(474)～4(477)

【編集後記】

昨年は東日本大地震、それに伴う原発事故と悲しい辛い年になりました。その中で「絆」という言葉を改めて感じさせられる年でもありました。まだ不自由な生活を余儀なくされている会員の方もいらっしゃると思いますが、新たな年を迎え、復興にはまだ時間がかかると思いますが、力を合わせて頑張っていきたいと思っております。

3月11日に関西支部総会が開催されます。会員の皆様には多数ご参加くださるようお願いいたします。また、学会功績賞ならびに業績賞の候補者を募集いたしますので、推薦書を学会事務局宛てお送りください。

日本工学教育協会国際会議の論文募集案内も同封いたします。例年のように本学会はこの行事に協賛しております。

(穂積洋一)

日本技術史教育学会ニューズレター 第89号

2012年 1月25日 印刷

2012年 1月31日 発行



技 術 史 教 育

Education for History of Technology

発行者
編集

日本技術史教育学会 会長 白井 靖 幸
日本技術史教育学会
(株) プラス・ワン気付 日本技術史教育学会 事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-5 小安ビル 6F
TEL/FAX: 03-3835-2494
E-Mail: jseht@nifty.com